

足立区立郷土博物館

2020 spring No.74

江 戸琳派のパイオニア、酒井抱一が描いた今年の干支、ねずみの絵（大黒天神鼠図）。この何とも言えない愛らしさで今年最初に展示室を飾ってくれた絵は、画像データを当館のホームページから自由にダウンロードしてご利用いただけます。

イ ンターネット上にある画像というものは、たとえ無料で閲覧できているとしても、原則として好き勝手に利用することはできません。しかし当館では、さまざまな美術資料や歴史資料、古写真などを、著作権が無い状態であることを確認したのち、自由にご利用いただけるようインターネット上で公開しています。

現在、約2400点の画像を公開中。多いジャンルは浮世絵、ついで写真、江戸絵画の順です。写真では、いまは歴史上の風景となっている「お化け煙突」（右下写真。千住火力発電所）の姿や都電、豊かな田園の様子をご覧いただけます。他にも希少な江戸時代の古文書や絵図も登録



特集 資料のネット公開

オープンデータと博物館

しています。企業などの営利目的の利用もOKで、申請や報告も不要なため、利用実績を把握することは難しいのですが、最も多いのは出版物やテレビ番組での利用とされます。足立区を取り上げた番組をはじめ、浮世絵などは江戸をテーマとした番組でも活用されました。商品化が行われた例もあります。区内のグッズ制作会社さんがスマホケースに、大阪船場の

呉服屋さん
が帯のデザ
インにご利
用になった
ことをお知
らせいただ
いています。
個人での利
用で一部お
知らせいただ
いているのは、SNS
やカード制作です。

検索サイトで「足立区 郷土博物館」を検索し、当館のホームページにアクセスしていただき、「オープンデータ」のボタンをクリックするとダウンロード可能なサイト「収集資料データベース」が開きます。



資料画像のダウンロード方法



- ① キーワードを入力して検索ボタンをクリック
- ② 希望の画像をクリックして詳細画面へ。
- ③ [拡大] をクリックして閲覧画面へ。
- ④ 右下の [保存] をクリックで保存可能！



画像公開と

資料保存

博

博物館の画像公開は知的財産権のパブリックドメイン（公的領域）という考え方に基づいています。著作権が滅失した知的財産は「公共の資産」という位置づけで日本はもとより世界共通の知的財産権の表現方法です。

本当は実物の資料を自由に見ら

れば良いのですが、繊細で傷みやすい資料—たとえば浮世絵等が典型—は、取扱い次第ではあつという間に劣化してしまいます。将来の利活用者にも引き継ぐことを考えると、なかなか現品をいつでも自由に見ることはできません。どこの博物館も抱えるこの悩みを解決してくれたのがネット公開です。

複

製が広く使われることは、博物館にとって実はありがたいことです。多くの人が「いいね」と思っていただけで、資料価値が高まり保存につながっていくからです。また利活用者の皆様もパソコン、タブレット、スマホでご覧いただける利便性は大きいところudur。

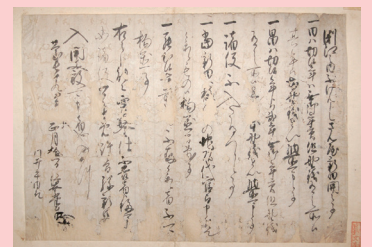
また近年、博物館も被災することがありますが、たくさん画像複製が存在すること自体が復元の手掛かりになります。複製することが保存につながります。歴史上、「源氏物語」のように貴重な記録が、写本によって今日に伝えられていることと同じでしょう。

撮影から資料研究とネット公開

写真は漆器を入れた箱の裏書を撮影しているところです。ネット公開のためだけでなく資料研究のためにも資料撮影を行います。頻繁に原資料を取り扱うのを避けることで保存をはかる意味合いもあります。



こうして撮影し、資料研究を進めます。例えば資料名称もその一つです。名前の決め方もいくつかあります。例えば下の古文書は形態表題では「印判状」（はんことサインがある一枚物の古文書）、内容表題では「開発定書」となります。どちらも正しいのですが、ネット公開の時には検索されやすいように代官の名前をつけて「伊奈忠治開発定書」としています。



公開の履歴書

当館の画像公開は足立区のオープンデータの一環です。オープンデータ（Open Data）とは2010年前後から一般化した概念で、制限を無くし活用できるようにしたデータのことです。足立区では2015年にスタートし、当館も展覧会関連事業の一環として区のホームページ内ではじめました。一方、既存の博物館の収蔵品管理システムもネット公開に対応することが可能になり、2017年に現在の方法でご提供して

公開過程

年月日	事項
2015.08	展覧会関連事業でPD公開（100点）
2015.11	足立区オープンデータ正式开始
2016.03	収蔵品システムでダウンロードの検討開始
2017.04.12	区長ブログにて公開のお知らせ
2017.04.15	テスト公開開始
2017.06.15	本格公開
2017.07～08	CCJPのツイート等で広く知られる

※ 表中の略称 PD=パブリックドメイン
CCJP=クリエイティブコモンズ・ジャパン

パブリックドメイン
での画像公開
公立博物館では
日本初!?



公開のために必要なこと！ 資料の調査をつくる

— 美術資料の場合 —

調べるのが公開の第一歩！

広く公開している郷土博物館の資料ですが、収蔵から公開までには時間がかかります。なぜなら、地域で確認される資料は、詳細な調査記録もまだなく、骨董商などの手も入っていない新資料だからです。それらの資料の内容を調べるのが、公開の第一歩となります。

どんなことを調べるの？

● **まずは基本情報** 郷土博物館オーブンデータから「美術品」の項目を見てみると、画像と一緒に「作者／作品名／時代（作られた年代）／解説／法量（サイズ）／頁数（数量）」という情報が出てきます。これは、博物館資料を広く知ってもらうための最低限の情報で、博物館では美術資料担当の学芸員が、こういった基本情報を調べて、「美術資料調査書」へ記入していきます。

● **実際の調査作業** では、冒頭でも取り上げている「大黒天神鼠図」を例に取って、基本情報をとる「調査取り」の作業を説明していきます。

まずは、資料の法量（サイズ）を測ります。美術資料では、絵が描かれている部分を「本紙」、それ以外を「表装」としています。本紙を「内寸」、その外側の掛軸の部分を「外寸」として、それぞれのサイズを記録していきます。

その次に、その絵の材料を記録します。和紙なら「紙本」、絹なら「絹本」と言って、さらに墨だけで描かれていれば「墨画」、色が施されていれば「着色」と記録します。「大黒天神鼠図」は絹に墨だけで描かれているので「絹本墨画」と書きます。

● **絵の内面を考える** 次に、絵の作者や、その作られた年代、背景を考えます。多くの作品には、描いた人が「落款（サイン）」を書いているので、これを記録しながら描いた人を特定し、画風や、一緒に捺された印章から描かれた年代を特定していきます。難しいのが、こうした作者や時代から、作られた背景を考えることです。昔の絵は展覧会に出品したり、



美術館に飾るために描かれるものではなく、季節を飾ったり、お客様をもてなすために使われたものでした。描かれた画題（内容）を見ながら、作者や時代、それにその絵を持つていた家の人に伝わった話などを参考にし、その絵が作られた理由を推理していきます。「大黒天神鼠図」の場合、署名に「文政七甲申年子ノ月子ノ日子ノ刻」に描いたと書いてあったので、絵の内容と合わせて、子の月（十一月）の最初の子の日の、子の刻（午前零時）に大黒様を祀る「初子日」の為に、文政七年に描かれたとわかりました。しかし、多くの場合はこのような情報は無く、調べる

のに時間がかかります。

● 最終局面、「名付け」の難しさ

最後に残っているのが、資料の「タイトル」をつけることです。新たに確認された資料には当然名前がありません。ルールに沿って、「名付け」を行うのも学芸員の仕事です。絵の内容が伝わるようなタイトルにしなくてはいけないので、実は一番頭を使います。今回は、「大黒天神」の字がメインとなっていて、その下に鼠が描かれているので、「大黒天神鼠図」としました。

ここまでの調査を経てはじめて公開出来る状態となり、郷土博物館オーブンデータへと登録されているのです。

足立区立郷土博物館 美術資料調査 記録者：小林 優 記録日：2019年1月29日

作者名	さかい ほういつ 酒井 抱一	No.	1
作品名	だいこく てんじん ねずみ ず 大黒天神鼠図		
制作年代	文政7 (1824) 年		
作品メディア／形状	絹本墨画 軸装		
内寸 (高さ×幅) cm	86.0 × 31.3		
外寸 (高さ×幅) cm	169.0 × 43.6 軸先: 2.2		
落款印章	署名: 「文政七甲申子ノ月子ノ日子ノ刻画之抱一禪真」 印章: 朱文方印「抱一之印」、朱文方印「文詮」		
付属品	共箱 (池田孤都箱書)		
所蔵者	足立区立郷土博物館		

【備考】

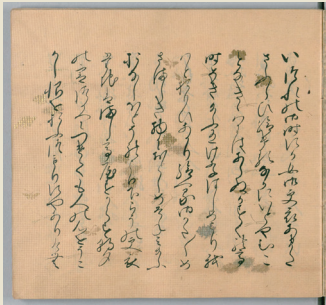
- ・箱書：蓋表「摩迦大黒天神尊号鼠書畫 権大僧都抱一尊師筆」
蓋裏「孤都三信箋題 (白文方印「煉心齋」)、(朱文方印「三信箋」)」
- ・箱側面札：「松参五〇口 抱一口 〇(大)黒鼠(朱文方印)、(白文方印) 第六五一号」
(破れにより一部判読不可)
- ・大黒天を祀る「摩迦大黒天神」の尊号の下に、古くから大黒天の使いとされる鼠（イエネズミ）を描いた作品で、署名に「文政七甲申子ノ月子ノ日子ノ刻画之抱一禪真」と年記があることから、文政7年の11月1日に、11月の最初の子の日の午前零時に供え物をして大黒天を祀る「初子日」に合わせて描かれたものであることがわかる。
- ・酒井 抱一 (宝暦11~文政11、1781~1829)：江戸後期に活動した絵師、俳人。字は暉真で屠牛、屠龍、狗禪、鸞村、雨華庵、輕拳道人などと号する。姫路藩主酒井忠仰の次男として江戸に生まれ、寛政2年に兄が没すると出家し、書画俳諧を通じて、大田南畝、谷文晁、亀田鵬斎などの文人たちと親交した。尾形光琳の画風を慕ってその画風を江戸で展開したことから、「江戸琳派」の祖と呼ばれる。千住の俳諧宗匠である建部巢松の親しい友人でもあることから、千住との関わりも深く、文化12年の千住酒合戦に際しては賓客として招かれる他、抱一との関わりによる書画作が多く確認される。また、抱一の孫弟子、曾孫弟子にあたる村越其榮、向榮親子が千住で寺小屋を営みつつ、千住の琳派絵師として活動している。

上：調査の風景。マスクをして、資料を傷つけないように布製のメジャーを使ってサイズを測っています。

下：郷土博物館の「美術資料調査書」。

写しや写真が伝える貴重資料

写し（コピー）をつくることは後世に資料を伝える手段として昔から重要でした。「日本書紀」、「伊勢物語」など古代の記録も原資料は失われており、鎌倉時代の写本で知ることができます。足立区でも貴重な古文書や、絵画資料が所在不明となり写真のみが残っている例もあります。オリジナルのみでは未来への継承が難しいという事例です。



写真は国会図書館が所蔵する東久邇宮家が伝えたという「源氏物語」の冒頭部分です。源氏物語は数多くの写本があり、今日に伝えられた典型的な貴重資料です。

国立国会図書館デジタルコレクションより

どんどん

ひろげて！保存のわ

保存の第一歩は みんなが使うこと



ホンモノそっくり 昔の優れたコピー方法

影印・えいいん 古文書の収集、墨蹟の

収集のため多くの影印本が作られました。文字の輪郭をなぞって写していてホンモノそっくり。例えば「記録御用所本古文書」という独立行政法人国立公文書館の古文書は優れた影印本で、この写本のみで知られる記録も多くあります。

摸本・もほん 優れた絵を写した絵。著名な絵師たちも技量を学んだり、勉強するために沢山の絵を写しました。ニセモノではなく学習や研究の資料にもなります。

全部じゃないデス 当館がデジタル画像で公開している資料は、いずれも著作権が滅失したものです。2019年より、保護期間は著作者の死後70年に延長されました。現時点で昭和24（1949）年以前のものはすべて著作権が滅失している資料になります。

複製を保存することのほか、資料の大切さが知れ渡ること、博物館だけではなく、みんなでその存在を伝えていくことができます。そして、何処かで眠っている資料が「古いから」とうっかり捨てられることを防げます。



足立区立郷土博物館だより 74号

足立区立郷土博物館 ADACHI CITY MUSEUM

〒120-0001 東京都足立区大谷田5-20-1

☎03-3620-9393 / e-mail hakubutsukan@city.adachi.tokyo.jp

URL = <https://www.city.adachi.tokyo.jp/hakubutsukan/>

令和2（2020）年3月発行

